

(別紙1)《会派用》

令和5年 1月 6日

狭山市議会議長

太田博希様

会派名 改進黨
代表者氏名 三浦和也



視 察 報 告 書

このことについて、別紙のとおり、報告がありましたのでご報告いたします。

受付
第 629 号
-5.1.06
狭山市議会

代表者 三浦 和也 様

視察者(代表)氏名 福田 正

視 察 報 告 書

このことについて、次のとおり報告します。

- 1 期 間 令和4年12月14日～令和4年12月15日 (1泊 2日)
- 2 視 察 先

石川県金沢市、和歌山県和歌山市

- 3 調 査 事 項

・子どもの居場所(サードプレイス)・地域交流活性化事業

まほうの다가しやチロル堂金澤店

・飲食業からはじまるまちづくり・キッチンカー炊き出し支援

シロキタキッチンパーク/フードトラックバンク

- 4 視察参加人数 4 人

参加者は次のとおり

三浦和也/笹本英輔/福田正/太田博希

- 5 調 査 概 要

別紙のとおり

狭山市議会改進黨 視察報告書

金沢市

[人 口]459,822人（令和4年12月1日現在）

[面 積]468.81平方キロメートル

[概 況]

明治22年に市制施行、平成8年に中核市移行。加賀藩前田家の城下町として栄え、加賀友禅や金沢箔、九谷焼などの伝統工芸や伝統芸能が受け継がれてきた。藩政時代からの美しい街並みが現在でも多く残っている。

【視察項目】

子どもの居場所(サードプレイス)・地域交流活性化事業

まほうの다가しやチロル堂について

【視察先選定理由】

まほうの다가しやチロル堂は、奈良県生駒市で始まった駄菓子屋で、今回視察を受け入れていただいた金沢店が2号店である。

チロル堂は、一見するとこどものための駄菓子屋であるが、子どもの居場所として幼児と保護者、小中学生に利用されている。今、全国的に子ども食堂の取り組みが広まっているが、それとは異なるアプローチで運営されているチロル堂の取り組みを学び、地域で支える子育てのありたい姿を調査するために視察先として選定した。

【視察内容】

- 1 事業実施に至る背景について**
- 2 事業に参画した5名が集まった経緯について**
- 3 店舗の運営方法について**
- 4 事業費用(準備・運営)について**
- 5 地域の理解、協力状況について**
- 6 児童生徒の来店状況について**
- 7 行政との連携状況について**
- 8 現状の課題と今後の展望について**

1. まほうのだがしやチロル堂金沢店

視察対応担当者: 柴田美咲 様

仁多見 明子 様

視察対象事業詳細:

子供達(小中学生、高校生等)だけが店内で使用できる「チロル」という独自通貨によって子供の食の支援、居場所づくり支援を行う事業。大人からはクラウドファンディング、単独またはサブスクリプションによるドネーションを受け付ける(今後実装予定)。また、大人の飲食による売り上げも活動の支援金に充当される。

所在地: 金沢市大野町3丁目15

◆事業実施に至る背景について

もともとチロル堂の前はお母さん 5 人で「ヤッテミヨウ」というママ友で構成された団体で活動していた。子供に挑戦する背中を見せたい、大人になっても挑戦してい



いし、失敗してもいいという思いから事業実施を決意した、今年の夏

から様々な子供向けイベントを行っていたところ、奈良県生駒市の「まほうの다가しやチロル堂」本店(以下、本店という)の仕組みを知って感動し、現地での直接交渉の末、二号店としての出店に至った。

◆運営について



金沢店の物件を所有する大家さんが町家再生の補助金を使って物件を改装していたのを利用した形でスタート。家賃は月10万円 建物の規模でいえば月15万程度かかるレベルを使用させて頂いている。資金はクラウドファンディングを行い、1か月

の募集期間で410万円集まった。運営上のリスクについては、赤字が出た部分は自分達で負担していくことを考えていた。現状では、前述の寄付や飲食の売り上げの他、週末の大人を対象としたカフェ BAR 業態による売り上げを得ている。事業の持続可能性を高めるため、今後は物品販売の価格設定、メニューの見直しなどを図っていく。今のところ運営者による「持ち出し」は発生していないが、自転車操業的な運営状況であり、決して楽ではない。

また、子供向けの支援活動をしていきたいと考えていた大家さんの協力も甚大だった、当該団体の構成員は、金沢市在住3人、富山、小松の5人であり、物件所在地の大野町には縁もゆかりもなかったのも、大変な苦勞があった。

◆地域との協力状況について

今後は、まちあるきのガイド(看板)的な要素をやっていきたいと考えている。地域からの反応については概ね肯定的であるが、庭で遊んでいる子が起こす不規則な行動について苦情を頂いてしまうことがある。



金沢店では、子供達はマスクの装着を任意としている。地域ではマスクもせずによそ者が飲食店を営業してるのはどうなのか、という手紙を頂くこともあった。町会長さんは子供の居場所ができることについては理解があった。まち全体からの理解を得るには時間がかかると思うが、今後も時間をかけてやっていきたい。それと並行して、まちの

掃除やおまつりなど、まちに貢献できることはしていきたい。

子供達からは「ここ(金沢店)にきたらコロナを忘れられる」というようなことも言われて嬉しく、安堵する。地域分断を生むつもりはないし、これからも多様な価値観が共生できる場所を目指していく。

スタッフィングについては、シフト制で調整している。平日は2人体制、土曜日は3人体制。お子さん連れ(実子)で来ている人も。収益性を高める事業を行っていくことから、一般社団法人格を12月12日に取得した。

◆事業について

子供達は来店時に100円玉を使ってカプセルトイ販売機から得られる「チロル」という店内の独自通貨を得られる。その独自通貨を用いると、店内で100円分の駄菓子を購入でき、カレー(大人には500円で販売)やポテトフライ(大人には400円で販売)が食べられる。その差額がドネーション等による支援から成り立っている。

小学生は基本的に5時まで滞在可能となっている。不登校の子も来ることがある。中高生の来店もあるが、そこまで多くはない。部活などがあり、来られる時間にお店が閉まっているようだ。

オープン当初は他地域からも来店があったが、駐車場が遠く、冬場は車での来店者が減少している。

◆その他

チロル堂金沢店は子供達だけでなく、大人がいてもよい場所、ということがまだ全体に伝わっていないところもある。本来は自分達がやらなくてもよいことであって、誰かがやってくればいいが、自分達の望む場所はそれぞれの地域に存在しない、こうした取り組みについて、資源や環境を地域でシェアしていきたい。また、地域の子供支援ネットワークにも参入している。子ども食堂等と並んだ、居場所マップという取組のみ辞退した。最終的に目指しているのは貧困の救済や支援だけではなく、本質的に子供達と向き合っていくことを追求していくのがこの団体の本質ととらえた。

◆質疑応答等

Q 飲食について、小中学生で食事に困っている子を見かけることはあるか

A 食に対してこだわりが強いと思われる子も散見されるが、学



校はどの子が貧困状態にあるかについては教えてくれないので、憶測の領域を出ずにいる。

Q 新店出店の見通しはあるか。

A 今後、本店が3店舗目以降の出店を考えているようだが、その動きにそこまで関わっていないのでわからない。ただし、飲食事業を生業として実施している(または、したことがある)人を新店参加の前提としているようだ。

Q スタッフの方の賃金や諸費用の支出状況は。

A 交通費などの必要経費も出せていない状態であり、苦しい実情がある。

Q スタッフ家族の理解は得られているか。

A あるところもないところもある。地域の子供支援事業は、もっと子供が大きくなってからでもいいのでは、と家族から言われることもある

が、今実施する必要があると考えている。金沢店の活動を見て、私もこれならできそうだと各地で挑戦してくれる人が出る事を祈っている。

Q 今後の事業展開は

A レンタルスペースを既に稼働させており、さらに利用拡大を図る。

Q 本店に支払うロイヤリティなどはあるか

A 特に現在は発生していない。本店からの現在のオーダーは、理念だけを遵守してもらえることにとどまっている。表面的なルールはない。

和歌山市

[人 口]365,166人（令和4年12月1日現在）

[面 積]208.85平方キロメートル

[概 況]

紀伊半島北西部に位置する和歌山市は、市内中央を紀の川が流れ、徳川御三家紀州藩の城下町として発展してきた。繊維工業や木工業などの地場産業が盛んで、昭和初期には重化学工業も集積したため、南海の工都などとも称された。

【視察項目】

リノベーションまちづくり

シロキタキッチンパーク・フードトラックバンク

【視察先選定理由】

統廃合された小中学校への大学誘致に取り組み、4 大学が開校。若者達の集積に成功したこのまちのリノベーションの手法や、市内飲食事業者の活性化を図るキッチンカー事業、防災手法としてのキッチンカーの防災事業登録などを調査するため、視察項目として選定した。

【視察内容】

- 1 事業実施に至る背景について
- 2 運営手法について
- 3 事業費用(準備・運営)について
- 4 事業者の出店状況について
- 5 行政との連携状況について
- 6 今後の課題と展望について
- 7 行政との連携状況について
- 8 現状の課題と今後の展望について
- 9 発災時の業務フローについて
- 10 自治会等との連携状況について

2. 和歌山市 リノベーションまちづくり・シロキタキッチンパーク

フードトラックバンク

【和歌山市の背景】

年齢別人口では、高齢化率は31%にのぼる。行政規模は面積208キロ平方メートルであり、関西国際



空港から車で35分程度、意外と交通の便がよいというのが一般的な評価。平成の大合併の際に合併はしておらず、単独での行政運営を続けてきた。和歌山県の人口が90万人程度、人口2位の町が7万人くらいという動態。

【中心市街地の定義】・・・南海和歌山市駅、JR 和歌山駅、和歌山城を結んだエリア。観光地として積極的に PR している。加太の夕日、磯の浦海水浴場(サーフィン)、和歌の浦など。

【小中学校の統廃合を進めた結果】

平成29年度に義務教育学校を設立。義務教育学校の新しい取組を聞きつけて移り住んでくる若い世代が多い。廃校になった小中学校跡地には、和歌山県立薬学部など大学を3つ誘致した。和歌山市駅図書館（CCCによる運営）なども設置した。DID（人口集中地区）については、高度経済成長期を経て、人口集中地区は3倍の規模となっている。

【リノベーションまちづくり】

遊休不動産・公共空間の利用として、民間主導の官民連携が基本&経済合理性の高いプロジェクトを実施した。不動産オーナー



⇨家守会社⇨事業オーナーの関係を構築し、大きいリノベーションと小さいリノベーションを組み合わせた。点と点を結んで線にしていくことが重要と考えている。

【リノベーションスクール】

2泊3日で遊休不動産再生とまちづくりの担い手の育成を図る。同じ

志(気持ち)を持つ人間を集約していく役割もある。2013年度から9回開催され、220名が受講、リノバスクール提案の事業化が10件、その他の物件で受講生が携わって事業化されたものが14件あり、まちなかのコンテンツが充実してきている。

【インフラ整備会社との連携】

南海電気鉄道、JR 西日本和歌山支社との協定を締結。都市再生推進法人として、12法人を認定した。ま



ちづくりファンドの設立…4000万円規模

パーク PFI の手法を用いた遊休不動産の活用を行い、本町公園(地下駐車場の活用など)を例に、ウォークブルシティに関する取組も進む。

その他、わかやま共創プログラム「チャッカソン」を開催。

【課題】

何をするにも資金が必要であり、その資金繰りが課題。都市再生推進法人もやりたい気持ちはあるが、資金をどうするかがネックになっている。不動産所有している人は、土地の扱いについて「このままでよい」とする人たちも相当数おり、説得するのに相当の労力を要する。

【シロキタキッチンパーク】

奥畑公康 氏

2019, 2020年の新型コロナウイルス感染症で飲食店が大打撃を受ける。国から事業再構築補助金を頂いた資金でキッチンカーを作ったが、出店する場所がない。その折に、市役所近くの土地がコインパーキングになると聞き、もったいないと感じた。日々キッチンカーが変わるようなお店になればよいと思って事業に着手した。クラウドファンディングにて237万円集まり、賃貸で借り上げをすることになった。平日出店する場所がない方も多く、ニーズが高い。

【運営】

出店運営は希望者に申し込み書を書いてもらい、その後に LINE グループで出店調整を行う。出店者は電源含めて1日3300円。広告設置でも費用を頂いている。アルコールの提供も OK している。また、クラウドファンディングのリターンで人気があったのは出店権だった。

【フードトラックバンク】

和歌山市で1週間から2週間程度の断水が起こり、その時に市民の1/3が影響を受けたことがあった。その時は自炊できない状態にある

ので、この組織を作った。キッチンパークに入会する際に意思を確認するだけなので、容易。過去に断水の時には、ビールメーカーさん達が水を市民に配布してあげてほしい、として各店舗に水を持ってきてくれた。

発災時のフローについては、まだ明確にできてはいないが、防災訓練で150食を2時間程度で茶粥(和歌山の文化)炊き出しができた。今後、防災担当と連携していきたい。

【地域連携について】

自治会のイベントなどにも声をかけると出店してくれる方が多いので、助かっている。

城前広場は3店舗出店した経緯は、和歌山城の観光客



は多いが、市内の回遊をせずに次の観光地に行ってしまう。市としては和歌山市内でお金を使ってほしい、興味を持って頂くように設置した。

【今後の課題について】

行政と連携していきたいと考えている。どうやって話を持っていけばよいかわからないところもある。防災的な観点でいえば、キッチンカーは点在しているというところもよい。